

2021年3月期 第1Q

決算補足資料

本資料は第1Q決算（4月～6月）に関するポイントのみを抜粋した内容となっております
今後の戦略や海外展開状況、株主還元の考え方、新型コロナウイルスの各種影響等につきましては
6月15日発表の「2020年3月期 決算説明会資料」をご参照くださいますようお願い申し上げます

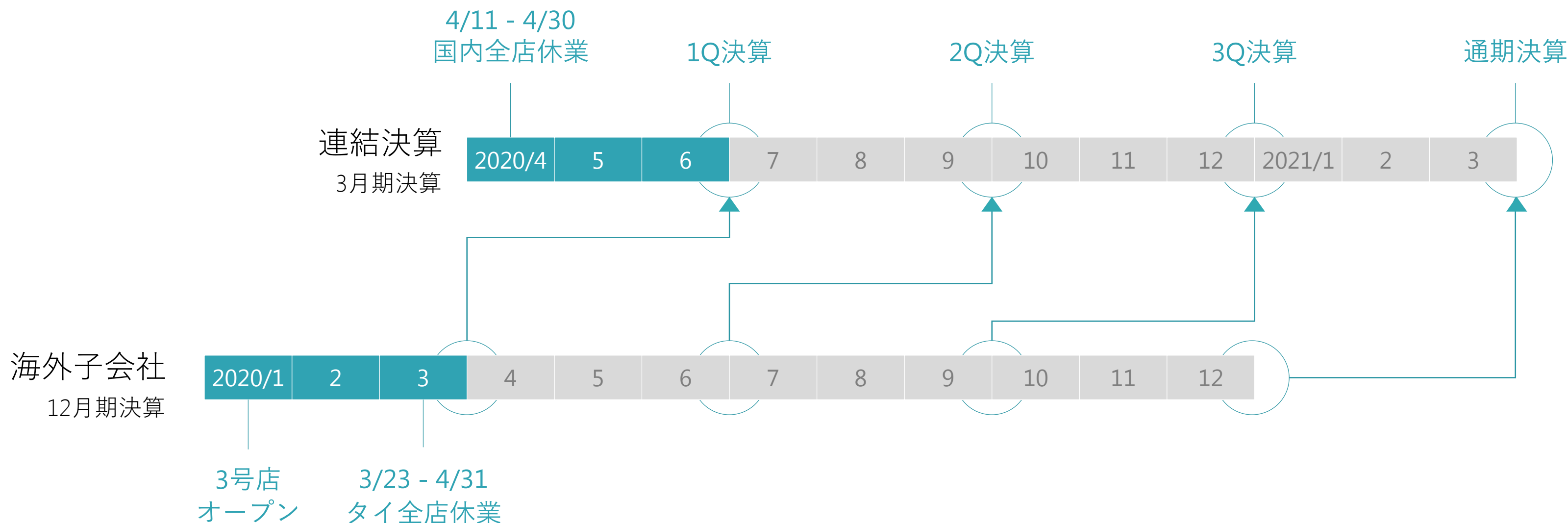
https://wattmann.co.jp/IR/LIBRARY/202003/202003_setsumei_tuki.pdf

株式会社ワットマン

2020年8月7日

連結決算に関する留意点

海外子会社の業績は3か月遅れでの合算となるため、今回の第1Q連結決算には、2020年4月以降に海外子会社で発生した売上高・営業利益額は反映されておられません



01 | 4月損失を5-6月で 補い、営業黒字化

4月全店休業及び5月一部店舗休業により当初は第1Q営業赤字予想だったが、4月ネット売上向上による **大幅な損失圧縮** と5月・6月の **大幅な営業増益** により損失を補い、第1Q営業黒字化に成功（最終利益黒字化にも成功）

→ P.3

02 | 5-6月営業利益率 14.2%と高水準

営業再開後の5-6月は、用水光熱費や雑消耗品費をはじめとした販管費の圧縮効果により、5月営業利益前年比 **176%**、6月 **197%** と大幅な増益となった（単体）
休業した4月を除き、5-6月の営業利益率は **14.2%** と非常に高い水準に着地

→ P.4

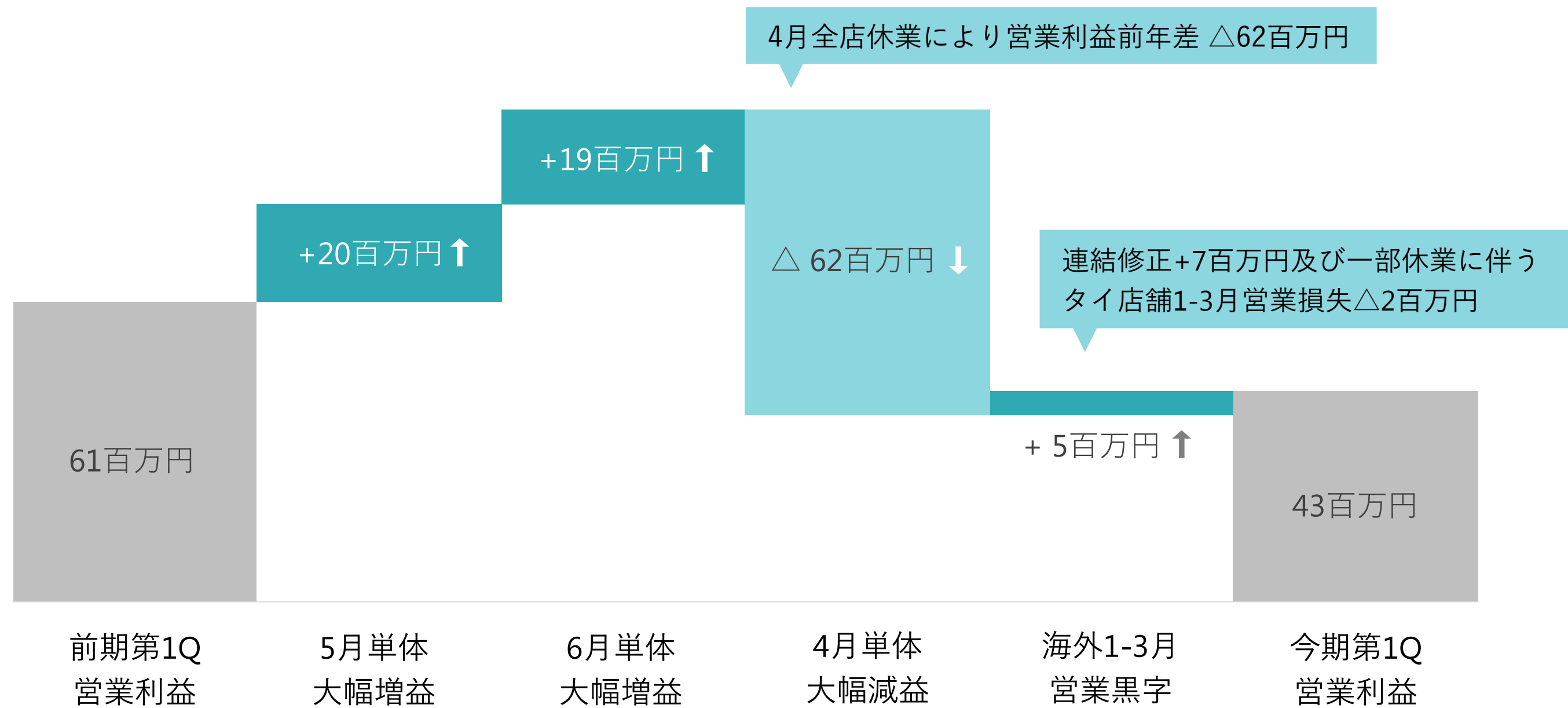
03 | 5-6月既存店売上高 100%超えと回復

5月売上高前年比104%、6月100%と回復。ただし一時的な“特需”は、在庫減及び買取減を誘起し、店舗型リユース業にとって必ずしも望ましいものではないため、営業利益が創出される範囲において、過剰な売上増とならないよう、コントロール

→ P.5

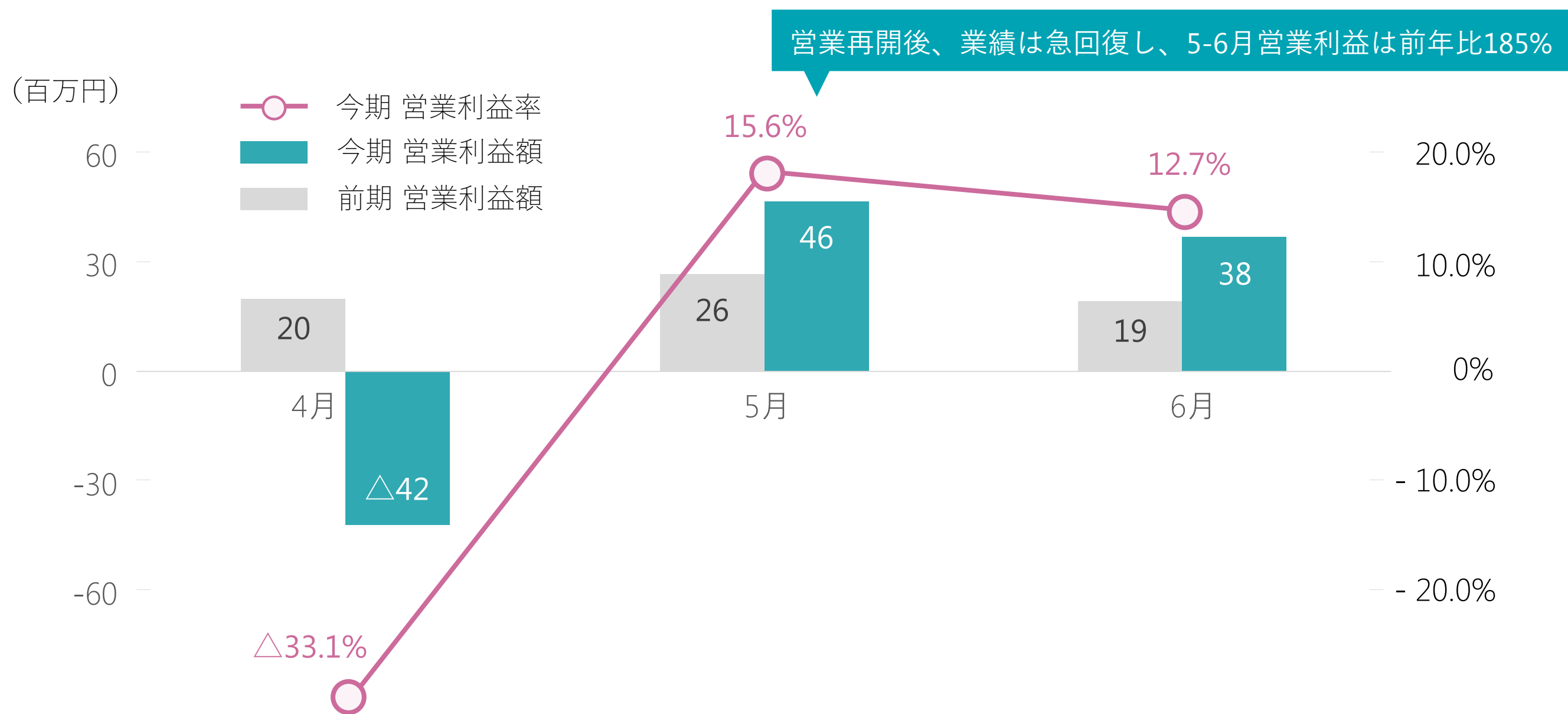
01 第1Q 営業利益

4月全店休業及び5月一部店舗休業により当初は第1Q営業赤字予想だったが、4月ネット売上向上による大幅な損失圧縮と5月・6月の大幅な営業増益により、4月損失を補い、第1Q営業黒字化に成功



02 営業利益 月別推移（単体）

全店自主休業の影響で、4月は42百万円の営業損失だったものの、営業再開後の5月・6月とも前年を大きく上回る営業利益を創出し、5-6月の営業利益率は14.2%と高水準に着地



03 第1Q 売上高（単体）

店舗型リユース業において一時的な“特需”は、在庫減及び買取減を誘起し、必ずしも望ましいものではないため、営業利益が創出される範囲において、過剰な売上増とならないよう、コントロール

売上高前年比

	4月	5月	6月	
既存店	42.5%	104.0%	100.0%	前年比100%あれば十分な営業利益を確保できるため、過剰な売上増は避ける
電化製品	62.6%	130.8%	110.8%	好調だが巣ごもり消費による“特需”の様相が強いため、中期的にみると在庫減及び買取減を引き起こす恐れ。
パッケージメディア	44.8%	114.7%	99.0%	アパレル不調を補う範囲で過剰な売上増とならないよう可能な限りコントロール
服飾等	29.1%	80.9%	93.4%	徐々に回復傾向にあるものの不調。アパレル不調は長期化することを念頭に、その他カテゴリの拡充を図る

2021年3月期見通し 現時点でのファクト

現時点で新型コロナウイルス感染拡大の影響に不確定要素が多く、現時点での業績予測は「未定」としております。2020年6月末時点でのファクトは以下の通りです

売上高（単体）

4月全店休業により、既存店の売上高前年比42.5%と落ち込んだが、5月既存店前年比104.0%、6月既存店前年比100.0%とコントロール範囲内において好調に推移し、4月-6月累計で既存店前年比82.1%まで回復

× 売上総利益率

休業の4月を除く5-6月累計の売上総利益率は**67.2%**と新型コロナウイルス感染拡大前の水準に回復。コロナ禍の新生活様式に伴い高利益率の衣料品が不調だが、従前より進めている売上総利益率改善策が効果を創出し、オフセット

－ SGA

販管費適正化施策の効果に加え、営業時間短縮等による販管費圧縮により、休業した4月を除く5-6月累計売上高販管費率は**53.0%**と好調な数値に着地。販管費圧縮が一時的な効果とならないよう、7月以降定着化を進める

= 営業利益（単体）

4月全店休業により42百万円の営業損失（前年同月比62百万円の減益）だが、再開後の5-6月は急回復し、売上高営業利益率**14.2%**と非常に高い水準に着地。**第1Qで営業赤字解消に成功**
（5月末時点では特別損失の影響で最終赤字だったが、第1Qで最終利益も黒字化に成功）

現在の状況

4月休業から回復し通常営業

4月休業明けの5月-6月は、感染予防と休業からのリカバリに集中していたが、7月からは成長に向けた取り組みを再開する等、時短営業は継続しているものの、ほぼ通常運営

ネット型スピノフが伸展

3つのスピノフ事業は何れも順調だが特にネット型スピノフで顕著な成長がみられ、6月はカウマン事業で過去最高売上高を達成

コロナ前売上水準に回復

タイ店舗は5月より営業を再開し、5-6月売上高はコロナ前の水準まで回復。日本からの再リユース品の輸出も5以降はコロナ前水準に回復し、7月は過去最高輸出額を達成

コア
事業

スピ
ノフ

海外
事業

今期の方向性

積極的に出店検討中

コロナの影響による出店候補地の拡大を成長機会ととらえ、新規出店・移転・増床含め、積極的に検討中。（ただし出店候補地の拡大が2022/3期にずれ込む可能性あり）

特需終了後に実力判断

新たなスピノフ及び既存スピノフの多店舗展開を検討しているものの、特にネット型に関しては巣ごもり消費の“特需”に踊らされないよう、慎重に自店の実力を見極める

出店攻勢は緩めない

日本からの入国制限により4号店のオープンは延期しているが、第2Q中には開店できる見込み。5号店の場所もほぼ決まっており、前期の出店ペースは緩めない

* オーガニック事業の内容については、2020/6/15発表の「決算説明会資料」（PP.23-28）をご参照ください

THANK YOU!

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は
当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており
実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります

お問い合わせ

株式会社ワットマン 経理IRグループ

神奈川県横浜市旭区鶴ヶ峰本町 1-27-13

IR問い合わせ : info-ir@wattmann.co.jp